特別の教科 道徳

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2025-09-12 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 石川 理恵, 中橋 弘高, 兵地 梓 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.24517/0002003440

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 4.0 International License.

特別の教科　道徳

石川　理恵
中橋　弘高
兵地　梓

１．はじめに

学習指導要領に示された道徳科の目標には，「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため，道徳的諸価値についての理解を基に，自己を見つめ，物事を広い視野から多面的・多角的に考え，人間としての生き方についての考えを深める学習を通して，道徳的な判断力，心情，実践意欲と態度を育てる」とある。これを達成するためには，他教科との関連を図りながら，学校の教育活動全体で進めることが重要と考えている。

本校では，「創造デザイン科」での探究的な活動を通して，変化し続ける社会に対応し，また創造していくことができる人間の育成を目指している。そのため，特別の教科道徳では，真理や真実を求め，探求し続けることの大切さに気づかせることができる題材を選択し続けている。この題材を通して，物事を多面的に見ることの大切さや，探求し続けることの大切さに気付かせ，自分自身の内なる自己の追求につなげられると考える。

２．探求的な活動（創造デザイン科）と教科等との関わりについて

（１）探究的な活動に生かされると考えられる資質・能力

本校では，特別の教科道徳において，Society5.0 を主体的に生きるための資質能力，特に「イノベーターのマインドセット」の育成を図っている。これは，創造デザイン科での探究的な活動を通して育成を目指している「新たな価値を創造する資質・能力」（表１）の一つである。その定義は，特別の教科道徳の内容項目にある「希望と勇気，克己と強い意志」と「真理の探究，創造」につながると考える。新しいものを生み出すには，結論を急ぐのではなく真理や真実を求め，探求し続けることが大切となる。失敗，再構築，挑戦を繰り返して行く中で，自分自身の可能性を広げることになることに気づかせることができると考える。

表１　新たな価値を創造する資質・能力とその定義

	新たな価値を創造する資質・能力	定義
1	創造に関する基礎的な知識・技能	創造やイノベーションの定義，マインドマップ，ブレインストーミングなど，新しく価値あるものを生み出すことに関する基礎的な知識・技能。
2	デザイン思考	問題解決の思考法の一つ。対象とする問題を解決するために，認識されていない内なる課題を見出し，発散的思考と収束的思考を繰り返すことで，設定した課題を解決するための最適な手立てを考えていく思考法。
3	イノベーターのマインドセット	「既存の考えに捉われることなく，斬新な発想を歓迎し，失敗してもいいからひとまずやってみる。」，「自分には，周囲の世界を変える力がある。自分には，何かを生み出し，実行する力がある。」など，イノベーターが有している態度。

（２）探究的な活動に生かされると考えられる資質・能力を育成するための手立て

①第１学年

一年生では，内容項目Ａ（４）「希望と勇気，克己と強い意志」の実践に取り組んだ。新しいものを生み出す時には，既存の考えにとらわれることなく，まずは挑戦してみる姿勢と，失敗しても諦めずに粘

り強く繰り返し挑戦する行動力が必要であると考えた。

本実践は，『「どうせ無理」という言葉に負けない』を題材とし，下町の電機会社からロケット開発に取り組んだ植松努さんのエッセイである。ここでは，最初から無理と決めつけず，直面する困難にも試行錯誤を重ねながら，繰り返し挑戦する作者の姿を見ることができる。

一年生の創造デザイン科では，「よりよい学校を創造しよう」をテーマとし，生徒たちは学校生活の中における課題を見つけ，自らどのように働きかけることでその課題が解決されるのかを考える。同じ目的意識を持った数人と班になり，課題解決に向けて考えた企画を実施し，それを振り返る活動を行っている。生徒たちの課題解決に取り組む好奇心は高く，効果的な方法を考え出そうとする姿勢が見られる。しかし，企画の実施を急ぐあまり，課題と解決策が合致していないこともある。物事の真理を探求することが新たな発見や創造につながるため，「どうせ無理」と努力することを諦めずに，見方や考え方を広げていくことの大切さに気づかせられる題材であると考えた。

②第２学年

二年生は，内容項目Ａ（４）「希望と勇気，克己と強い意志」の実践に取り組んだ。本実践は，右手が不自由になりながらも，左手だけで演奏するピアニストとして奮闘した舘野泉さんの，強い気持ちで挑戦を続ける姿を伝えるエピソードを通して，人生を切り拓く原動力となる理想や目標の達成達成に向けて困難や失敗を乗り越えて最後までやり遂げようとする強い意志を養うことをねらいとしている。本学年は，どの教科の授業においても，目標の達成に向けて地道に努力を重ねることができる生徒が多い。その反面，失敗や挫折を恐れ，プレッシャーやストレスを強く感じ，それらを回避しようとする傾向も散見される。困難や失敗を乗り越えて目標や夢の実現に向かって挑戦し続けようとする意欲や姿勢は，本校が定める資質・能力の基板となるものである。共感から見出された課題に対して試行錯誤を重ねながらより良く解決する方策を探究し続けることが，社会だけでなく自身の生涯を豊かにすることにつながることを，生徒自身の体験を振り返りながら考えられる実践とすることを試みた。

③第３学年

三年生は，内容項目Ａ（４）「希望と勇気，克己と強い意志」に関わる資料に取り組んだ。本実践は，プロスキーヤーである三浦雄一郎さんが，世界最高齢でのエベレスト登頂を成功させた実話を通して，「高い目標の実現を目指して，最後まで粘り強く自らの人生を着実に切り開いていこうとする意欲を育てる」ことをねらいとしている。「高い目標の実現を目指して，最後まで粘り強く自らの人生を着実に切り開いていこうとする意欲」は，本校が定める新たな価値を創造する資質・能力の内，「イノベーターのマインドセット」の基礎となる考え方だと言える。そのため，本研究では，本実践のねらいにせまる学習指導を通して，新たな価値を創造する資質・能力である「イノベーターのマインドセット」の育成を試みた。

また，創造デザイン科では，より良い地域社会の形成者として地域への提案を企画・実行している。その際に，考えたアイデアがなかなか実現できないことに焦燥感を感じる生徒も多く見られる。しかし，実際にアイデアを実現するためには，何度も失敗や挑戦を繰り返していくことも必要である。そのため，授業の導入と終末に，「大きな目標（自分のやりたいと思うこと）を実現させるために必要なことは何か」について授業者から問いかけ，資料を通して生徒が必要だと考えた力について考えさせた。本実践の終盤では，実際にプロ野球選手の大谷翔平さんが，高校一年生の時に行っていた「マンダラチャート」に取り組んだ。同年代が大きな目標に向かって具体的な行動を考え，実行する姿から，授業のねらいへと迫る一助とした。このように，本題材を通して生徒達が自分自身の行動を具体的に考えることで，「より良く生きようとする態度」の育成を促すことができるのではないかと考えた。

３．成果と課題

（１）第１学年

一年生では，創造デザイン科の企画に取り組む中で，結果を急いでしまうあまり，企画の練り直しや失敗を繰り返している現状があった。そのため，一年生にとって「希望と勇気，克己と強い意志」を育成することが必要であると考えた。『「どうせ無理」という言葉に負けない』を題材とすることで，失敗や挫折を繰り返している同じ境遇の植松さんに共感しながらも，自分の可能性を追求し，真理を探求し続けようとする意欲の育成に繋げられると考えたからである。

導入場面では，生徒たちに「やりたいと思っていること」や「いつか達成したいと思っていること」について尋ねると，夢に対する意欲や希望と同時に，達成することができるのかという不安や，家族との意見の相違から来る葛藤を抱いていることを話してくれた。その後，題材を通して，植松さんが感じていた不安に共感したり，幾度もの失敗に負けない粘り強さを感じたりしている生徒の姿が見られた。挑戦することに対する生徒たちの気持ちが，徐々に強くなっていくのが見えた。

〇生徒の感想

・困難な夢でも，できない理由ではなく，できる理由を考えることで夢につながるとわかった。
・すぐに諦めるのではなく，途中まででもいいから挑戦して失敗した方が良いと思った。周りの人や状況は考えず，がむしゃらに頑張って行こうと思った。
・「だったらこうしてみたら」と考えることで夢を叶えることができるかも知れないと思った。
・「自分はできる」と思い続けることが大切だとわかった。
・少しでも「今してないことをしてみたら？」と自分に言えるようになった。
・自分より上手な人が現れたら自分の中で「どうせ無理」と思ってしまう時があります。これからは「伸びしろがある」と思うことにします。
・自分の本当に好きなことに没頭してみたくなった。
・自分の考えが周りの考えになっていました。周囲からの「すごいことをしなければいけない」という意見を，「したい」と考えるようにしていました。でも，それは私の気持ちではないので，「どうせ無理」と責めるようになっていました。このことが今まで分からなくて苦しかったです。今日知れてよかった。
・「どうせ無理」などのマイナスのことを跳ね返すことができる手段を身につけておきたい。
・少しでもいいから諦めずに頑張れるようになりたい。日常的にやってしまっている「諦めること」を減らしたいと思った。
・自分で自分に「どうせ無理」と思うけれど，自分で自分の味方になって「まだやっていないことはやってみないと分からない。だったらこうしてみれば？」と自分に言い聞かせてあげたい。
・自分が興味を持ったことは，周りに何と言われても自分の思いや考えを信じてチャレンジしようと思った。
・どんなときでも，どんなことがあっても，自分の夢を忘れてはいけない。自分の芯を取り乱してはいけないと思った。

（２）第２学年

二年生では，本校が定める資質・能力の育成の基盤となる，「希望と勇気，克己と強い意志」の内容項目を取り扱った。「左手でつかんだ音楽」の授業において，目標を立てて，理想通りに行かなかった体験や，挫折や失敗を乗り越えて目標を達成した時の体験を基に自身を振り返る活動を行った。困難に

打ち勝って努力をし続けた舘野泉さんの姿勢から，生徒たちは立てた目標に対して最後までやり遂げようとする強い意志，挫折や失敗を乗り越える自分なりの方法や，逆境から立ち直る力について考えを深め，挑戦し続けることの意義について考えることができた。

〇生徒の感想

・一回挫折することがあっても，形を変えてでも良いから一歩一歩目標に向かって歩き出そうとすることが大切である。
・自分にもいつか立ち直ることが難しいようなことが起こるかもしれないが，決して諦めず努力を惜しまず，希望を見いだせるといい。
・考えたことは逃げても戻ってくること。本来やるべきなのはそのような弱気になっている自分に喝を入れること。
・現状を知って目標のために何かをすることが大切だと思います。
・自分はすぐ面倒くさいと勉強などをやらなくなってしまうけど，もっと弱い自分に打ち勝てるくらいの強い心が欲しい。
・目標を達成させるには，その目標を達成することができるような手段を考える能力と，目標を達成させるという強い信念を持つことが大切。
・「続けること」と「気持ちのコントロール」が大切だと思った。失敗に落ち込むときは極限まで落ち込んでから前よりも強いメンタルで壁に突っ込み続けるのが大事。
・プライドを高めれば，失敗して名誉に傷を付けたくないから頑張り続けられる。失敗しても傷を治すべく立ち直ることができる。傷が深すぎて立ち直れないようであれば，目標をもう一度立てればいい。
・１日１日の計画を立てることで，やるべきことがはっきりして，粘り強く取り組めると思いました。
・「努力すること」が大切だと思った。何かを達成するためには努力が必要だし，結果を得ることで新たに努力をするきっかけになるから。
・目標を達成できないかもしれないと，自信がなくなった時も，努力し続けていつか結果が出るだろうと信じるのが良いと思いました。

（３）第３学年

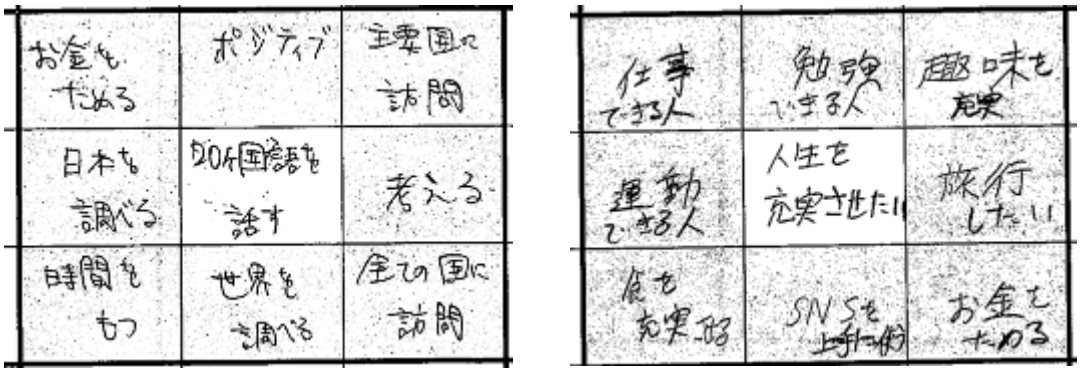
３年生では，創造デザイン科と連携し，本校が定める新たな価値を創造する資質・能力である「イノベーターのマインドセット」の育成を試み，授業前後での生徒の発言や感想の内容から分析・考察を行った。教科書の題材を扱う前に，生徒達にも馴染みの深いドジャースの大谷翔平さんについて紹介し，教科書の内容を扱った後に「マンダラチャート」に取り組ませた。その結果，生徒の感想文からは「大きな夢や目標をかなえるために努力し続ける事の大切さに気づいた」という記述が多く見られたことより，本実践は「イノベーターのマインドセット」と「より良く生きようとする態度」の育成に寄与すると考えられる。

〇生徒の感想

・大きな夢を叶えている人には，人間性が良いという共通点があるのではと思いました。人に認められるために人格を磨いていきたいと思いました。
・大きな夢を叶えるためには，自分を信じる心と周りに影響されないこと，自分を常に磨くことが必要だと思う。
・計画することにも楽しみが感じられた。自分の夢が何だったのかを再認識し，身近でできる努力をしていきたいと思う。

・夢は思いによって芽吹くもので，変わることもあると思う。自分が抱ける夢について，一定期間ごとに考える時間を設けることで，夢に対する想いを再確認し，計画し直すことが叶えるためのプロセスとして有力だと思う。
・三浦さんのようなポジティブ思考をできるようになりたいと思いました。何においても継続で結果が出てくるので，何か継続することを見付けたいです。
・なかなか，自分が目標を立てても，それまで努力し続けることはとても難しいなと改めて思った。大きな目標に対して，具体的に少しずつでも向かって努力できる人になりたいと思った。
・書いていってみると，今自分が何をしなければいけないのかなどがすごく明確になって良かった。これを実行できるかが大きな課題だと思ったが，ひとつひとつ超えていくのが大切だと思った。

図１　生徒が作成したマンダラチャートの一部



（４）おわりに

どの学年においても，自分の可能性を信じようとしたり，粘り強く挑戦し続けようとしたりする前向きな姿勢を読み取ることができる。このことから，特別の教科道徳の授業を通して，「イノベーターのマインドセット」の育成に繋がったと考えられる。しかし，生徒たちの日頃の様子からは，失敗してはならないと感じたり，他人の目を気にしたりしている姿も未だに見られる。そのため，特別の教科道徳や創造デザイン科だけでなく，生徒たちとの日頃の関わりを通して，諦めずに挑戦する姿勢を育成し続けていく。

４．参考文献

１）文部科学省：中学校学習指導要領（平成 29 年開示）解説